

1 主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成 ～ICTを活用した授業作りを通して～

2 主題設定の理由

子供たちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は欠かせないものとなる。

子供たちが主体的に学習する姿は、従来の一斉型の授業で知識・技能を一方向的に指導する形態では達成しにくいと考える。そのためには、単元の初めや途中段階で、身に付けたい力や活動時間を示し、ゴールを見通して活動させていきたい。ゴールに向かって、自らの学習を調整するために必要なものを見付けられる選択肢を与えることや、対話を通して様々な見方や考え方を知り、自信をもって最後まで粘り強く学習に取り組む姿を期待したい。

また、本校は、府中市より一昨年度プログラミング教育研究推進校、昨年度から GIGA スクール研究推進校として指定を受けてきた。昨年度 11 月より Chromebook が校内に導入されてからは教員も積極的に授業内で活用してきた。児童も新しい端末の新しい操作を覚えることを楽しんで取り組んできた。しかし、昨年度は Chromebook の導入が年度の後半であったこともあり、操作を楽しむことで満足している児童が少なくなかった。文部科学省の「GIGA スクール構想の実現に向けて」でも、PC 端末が鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであることが記されている。つまり、PC 端末を使うことが目的ではなく、活動のツールのひとつとして、効果的な活用方法が求められている。新型コロナウイルス感染症により密を避けながら達成するためにも、やはり従来の学習方法から見直していく必要があると考える。

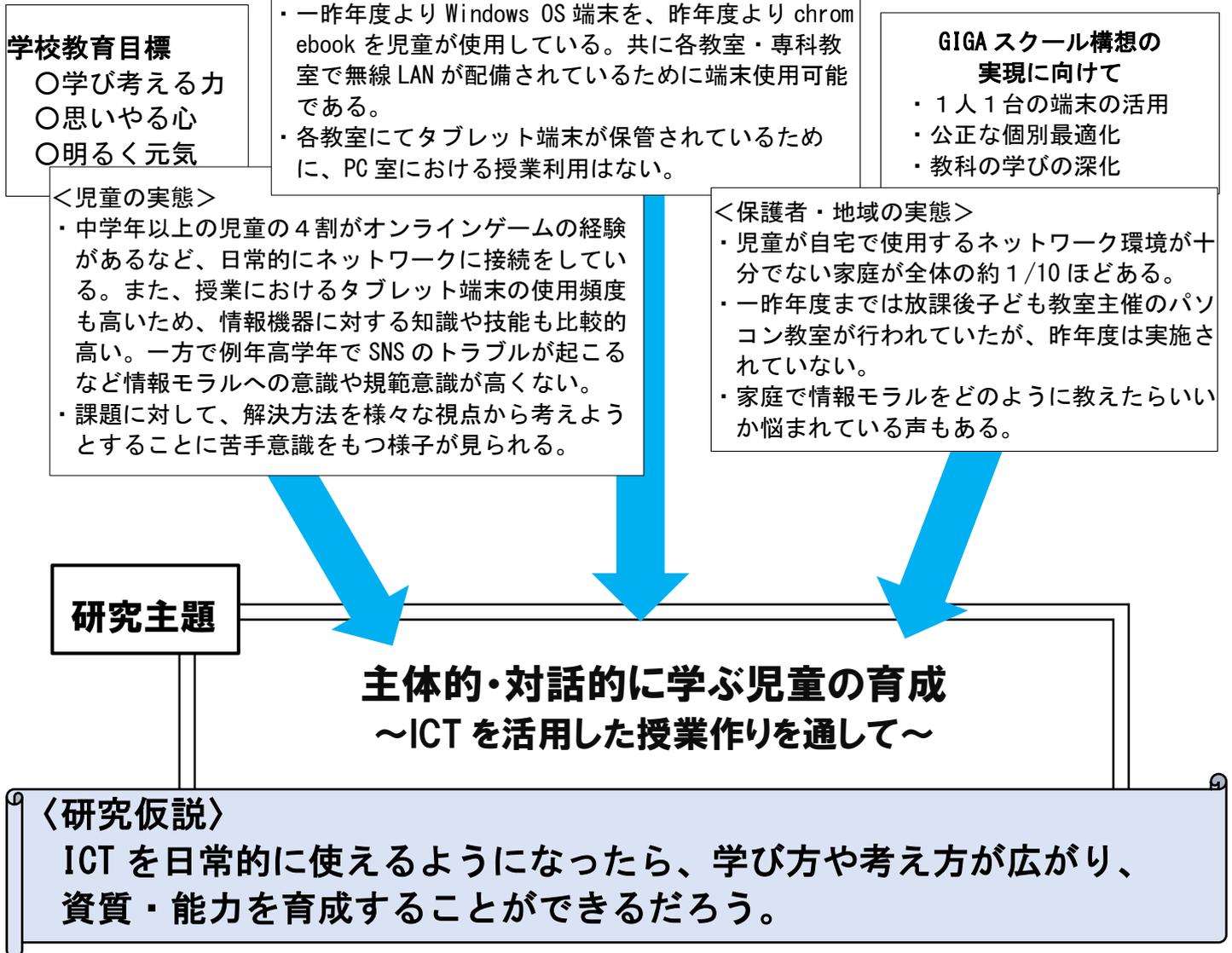
さらに、GIGA スクール研究推進校として、他校への実践を広めるための活動も同時に行うことで、市内の教員の ICT 操作スキルの向上と、ICT を用いた授業作りの実践の充実を図る。

このことから感染症対策を踏まえた上で教科のねらいに迫るために、上記の主題を設定した。

3 研究の方法

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 1 学期 | 教員の ICT 操作スキルを高める実技研修（クロムミニ研修も同時進行） |
| 2 学期 | 各ブロックから実践事例紹介・情報交換 |
| 3 学期 | 実技研修（講師は研推以外の方） |

4 研究構想図



ICT 活用場面の充実

GIGA 研究推進校として

教科の横断（カリマネ）

教科のねらいに迫るための効果的な活用

他校への講師派遣
市内全体への発信

情報活用能力の育成

感染症対策

情報モラルのルール化

選択できる学習方法

外部講師からの
情報提供

教員の ICT 操作スキル向上

脱！知識・技能の授業

目指す児童像

自ら学習方法を見つけて、課題解決ができる児童